

年月日

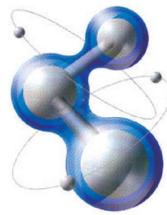
25 | 08 | 26

ページ

24

N O.

新たなの出



春田 善和 氏

富士ダイス社長

次なる成長へ
—6月に創業76周年を迎
り、学んできたことでの
まで来られたと実感してい
る。ただ当社は15年6月に

超硬耐摩耗工具・金型の製造販売で30%以上
のトップシェアを占める春田ダイスは、24年1
月に5代目社長に就任した春田善和社長が、1
00年企業を目指して変化に対応できる企業体
質への転換を進めている。春田社長に事業戦略

企業理念の「ジョコ」を策定。第一回株式会場で公開しました。

「創業者の教えを示した 会社となり、資本と経営が分離した。100年企業を目指す当社にとって、新たな四半世紀の始まりを前に、

コア技術生かし事業領域拡大

「当社の業績動向は経済産業省の『鉱工業生産指標』とリンクしている」と、多くのコロナ禍前の水準には戻らず厳しい状況が続いている。また、日本機械工業会は、

脱炭素・循環型社会視野に新事業



新ビジョンには、すべてのステークホルダーに感動体験を届けられる企業でありたいという願いを込めた…と話す春田さん。

100年企業目指し新理念・ビジョンを策定

脱技能依存 —自動化導入計画 —

を回収し、再利用する循環の方法を検討中
3000社に及ぶグローバルな取引先から不要品を
取り戻す新たな製品の材料

四〇九

資源回収料

への競争領域を広げ、この技術を生かした開発で事業ドメインを広げていく。この両輪で競争力の向上を目指していくのが良いのではないだろうか」

「高密度力」複雑なモノづくり技術や熟練技能者による生産される競争力を高め、製品が、これまで日本の製造業を支えてきた。だが、少子高齢化による人手不足が今後さらに進むことを考慮すれば、一部の自動化を進めることは必要だ。その上で、競争力が高い製品を作り続けることで海外へ

工業・商業の出荷額を見る
と、耐摩耗工具の出荷額は
ここ数年大きな動きが見ら
れない。今後も急激に伸び
ることはないだろう。創業
者の意向を尊重して超硬
磨耗工具事業でこれまでや
ってきたが、それに繋げ
るにない、当社の強みを
ある社員や技術、開発力を
生かしていくたい」

新たな挑戦

「24年7月に新規事業の
専門部署「新事業開発室」
立ち上げた。脱炭素・循
環社会の進展に伴う今後
の成長分野へのアプローチ
も目的の一つとした。既存
事業にとらわれることなく
新たな事業に挑戦していく
「脱炭素・循環型社会」
への貢献も中長期の重要な
策の一つです。

「廿五年で主に残ることば

・ビジョンを策定
れる電子部品向けの金型の中、当社は技能依存型から開発を取り組んでいます。次世代光通信に使われる光ファイバーと光学部品を接続するコネクターの金型で、超精密加工が求められています。開発から数年で要求される精度度の金型がある程度出来上がった。

「次世代エネルギー分野では水素発生用触媒などの関連製品の開発を進めています。分母台金技術と豊富な工業化経験を活かして、今まで以上に細かい手作業や地道な取り組みで、開発を進めていきたい」と、日本人の想いが語られる。

モノづくりの進むべき道